

番号	地区名	関係市町村	予定工期	作付予定品目(事業採択時点)
1	梁田	会津美里町	H31 ~ R5	きゅうり、カスミソウ、リンゴ、トマト
2	高野	会津若松市	R2 ~ R7	アスパラガス、トマト、たまねぎ、さといも
3	山田	いわき市	R2 ~ R7	飼料用米、ねぎ
4	神谷	いわき市	R3 ~ R8	キャベツ、白菜、たまねぎ
5	飯豊上	小野町	R4 ~ R7	こまつな、牧草
6	只見	只見町	R4 ~ R9	米加工
7	梁取	只見町	R4 ~ R9	トマト、そば、米加工

(表1)機構関連を活用して実施している地区の一覧表

【特集】 ほ場整備を契機とした 地域営農の活性化

農空間

第86号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課



山田地区(いわき市)における
ネギ作付け状況

1. ほ場整備について
昨年度、県では、本県農林水産業の施策の基本的な方向性を示す、新しい「福島県農林水産業振興計画」(R4～R12)を策定しました。この計画では、「『もうかる』『誇れる』共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村」を基本目標として掲げ、ほ場整備率は、78%以上(R2年度73%)とする計画です。ほ場整備は、狭小で不整形な農地等を大区画に整備するほか、排水不良を改善することなどにより、労働生産性や土地生産性の向上を図るものです。なお、事業を契機として担い手の経営面積を拡大し、経営の低コスト化を図るとともに、収益性の高い作物を導入することが『もうかる』農業の実現や地域営農の活性化の鍵になります。

2. 農地中間管理機構関連
本年度、本県では県営ほ場整備事業を約50地区で実施しています。このうち、農地中間管理機構関連農地整備事業(以下、「機構関連」という。)を活用して実施している地区は、(表1)の7地区です。

3. おわりに
ほ場整備は、地域営農の活性化に向けた目的ではなく手段です。このため、地域の条件(作物の生産条件、JAなどの農業者団体等の生産・販売計画)などを考慮し、地域に適した高収益作物の導入を受益者及び関係機関による十分な合意形成のもと決定していくことが重要です。

機構関連は、事業要件が、①全ての受益地で農地中間管理権を15年以上設定、②受益地の8割以上を事業完了後5年以内に担い手に集約化、③事業対象農地の収益性が事業完了後5年以内に20%以上向上などで、高い事業効果が求められるかわりに地元負担が無い事業です。

只見町の梁取地区では、(図1)のように、トマトのハウスを事業で移設し、トマトハウスの集団化及び拡大を図るほか、井戸や各園芸ほ場への給水管路・給水栓を整備する計画であるなど、ほ場整備を契機として高収益作物の導入を積極的に進める予定です。



(図1)梁取地区(只見町)のイメージ図

トピックス

◆福島県農林水産部 FA宣言!

県農林水産部では、今年度から県産農林水産物のブランド力強化の取組の一つとして、「福島県農林水産部FA宣言」と称して、県産農林水産物や農山漁村の魅力、各種行事、震災後の復興・風評払拭に向け努力されている生産者の姿などを、職員自らが直接取材し、動画等により情報発信することでおいしさや「福島ならでは」の魅力伝えていく取組をはじめました。

情報発信の一つとして、県農林水産部公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」を開設し、約1,400人の農林水産部職員が自由な発想で動画を企画・制作し、各地域の特色やイベント、生産を支える各種取組を発信していきます。皆様是非ご覧ください。



FAとは
F (Fukushima Forestry Fishery)
A (Appeal Agriculture)



◆ふくしまフェスタで パネル展を開催しました

令和4年7月30日～31日に道の駅あいづ湯川・会津坂下で「ふくしまフェスタ」が開催されました。会場では県産品の販売や観光PRなど様々なブースが展示される中、農村計画課では31日に東日本大震災からの復興・再生状況をパ



ふくしまフェスタの状況



来場者への説明状況

県内からの便り 相双農林事務所

ふくしまの農育推進事業 「ふくしま農村学びの場」事業

農業の営みの中で形づくられてきた水田や畑、水路、ため池、里山などは、農村の自然環境の重要な要素となっています。本事業はそれらを学びの場として、県内の学生を対象にし、農地や農業用施設の役割や保全の意義を学び、農業・農村への理解を深めてもらうことを目的としています。



ほ場整備の現場にて

7月14日に相馬農業高等学校の生徒12名に対し、横川ダム、南相馬市原町区で実施中のほ場整備(高平中部地区)の現地研修を行いました。横川ダムでは地盤沈下を防止するためにダムを建設した経緯や概要について説明を行った後、水量を管理する操作室、漏水・地震の点検をする監査路などを見学しました。高平中部地区では地区担当者、現場代理人がほ場整備について説明をしました。学生らはダムの規模やほ場整備後の田んぼの大きさに驚き、各機械やそ



横川ダムにて



の仕組みに興味を示していました。本事業では、普段入ることのできない場所を見学できることに加え、現場の方から直接説明や苦勞話を聞くことができるのが魅力です。今回の見学、今後の活動を通して、豊かな感性と深い見識、農業・農村への興味関心をもってくれると幸いです。そして、次世代の高校生たちが福島を牽引してくれることを楽しみにしています。

最後に、福島県内では横川ダムを含む県内各地のダムでダムカードを配布しています。興味のある方は、ぜひ現地に足を運び、様々なダムの形や特徴を知ってほしいです。

地域に根ざした水土里ネット

会津大川土地改良区

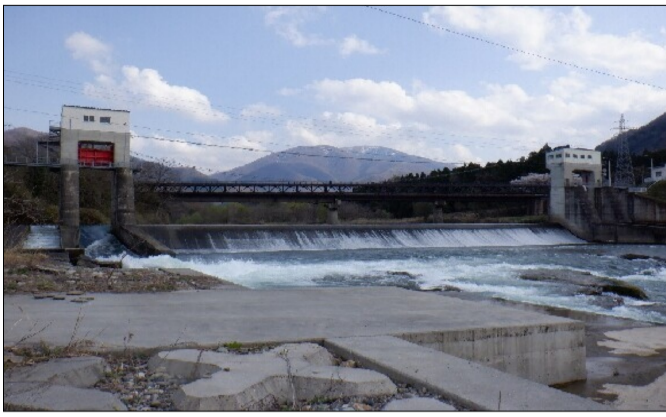
会津大川土地改良区は、会津若松市北会津町と大沼郡会津美里町の1市1町に跨がる受益面積約2,432ヘクタール、組合員1,715人の土地改良区です。

当管内の取水源は、栃木県と福島県の境にある荒海山を源とする阿賀野川水系です。建設省により昭和62年に作られた下郷町の大川ダムに水を貯め、その下流の馬越という地名からとった馬越頭首工が取水口となっております。

馬越頭首工は、戦前戦後(昭和5、昭和25年)に作られた施設であり、毎秒10トンの水を取水口から約6キロメートルのトンネルを通して受益地へ届けています。その末端においては、東北自然エネルギー(株)により落差25メートルを利用して、最大出力2,100キロワットを発電しております。

施設については、国営会津南部土地改良事業で昭和52、平成5年度に整備されましたが、事業完了後20年以上が経過し、老朽化が進行したため、平成27年から令和6年度完了に向け、改修工事の2期工事が現在進捗中です。

馬越頭首工の他、会津美里町のため池12箇所と北会津町の一部



馬越頭首工



施設の理解促進のための小学生向けの頭首工見学



水玉川から取水している下野堰、西後庵堰、鶴沼三堰が地区の取水源として利用しております。

ほ場整備についても取り組んでおり、北会津町は昭和38年から、会津美里町は昭和43年から事業に着手し、昭和60年前後にほぼ完了しております。

当管内では、最後となる会津若松市、北会津町の本田地区が農地中間管理機構関連農地整備事業として採択に向け進捗中で、本年度は、農用地等集団化事業に取り組みしております。本田地区は、受益面積25.3ヘクタールの会津大川土地改良区(鶴沼三堰)と会津宮川土地改良区(牛川頭首工)の宮川上流からの取水となる当管

内では少ない2改良区にまたがる用水系統になっております。この他にも、農村地域復興再生基盤総合整備事業 県営うつろ第4分水路地区が平成25年度の事業計画策定から9年を経て令和3年6月で事業の竣工を迎えました。これにより寛永3年(1626年)に高橋徳元が私財を投じて開削した山間部の中腹を走っている延長2,885メートルの水路で未整備に近い水路を改修することができました。

県営事業で造成された幹線用水路は9路線あり、経年劣化により事業化を進めるため、機能保全計画を策定しました。

水路保全のため、9路線の中でも特に劣化の酷い北会津幹線1号・5号用水路は県営水利施設等保全高度化事業(基幹水利施設保全型)の会津大川地区として取り組むこととなりました。

水路やほ場整備事業へ取り組み、農地等の保全、持続的に営農が出来ます。ことは、ひとえに関係機関皆様のご指導、ご鞭撻の賜と厚く御礼を申し上げます。



うつろ第4分水路

新規採用職員の紹介



相双農林事務所農村整備部では、今年度4県から7名の福耕支援隊の応援をいただき、被災地の復興・再生に向けて日々の業務に励んでいます。今回は2名の方々のメッセージを紹介します。

【氏名】山田直明 副主査(滋賀県)
【所属】農地計画課
【担当】市町村の災害復旧事業の審査・指導業務

大震災から11年が経過しましたが、現地を見ると、まだまだ復旧・復興する箇所があるなど、被害の甚大さについて日々体感しております。災害復旧業務については、日々勉強の毎日ですが、少しでも復興の力となれるよう皆様のご指導のもと尽力し、また、福島における復興状況について、派遣



山田副主査(滋賀県)

元にしつかりと発信していきたいと思えます。仕事以外では福島のたくさんの美味しい食べ物や自然など魅力を体験し、こちらでの日々を過ごしていきたいです。



山田副主査(滋賀県)(写真右)

【氏名】大内和也 技師(静岡県)
【所属】農村整備第二課
【担当】復興基盤総合整備事業(ほ場整備事業)

(原町東・高平中部・馬場西の3地区の副担当をしております) この4月に静岡県から派遣されましたが、福島県には祖父母の家があり、実は小さい頃から何度も遊びに来ていました。幸いにも東日本大震災で大きな被害はなかったものの、祖父母が農家としての生活に多大な影響を受けている



大内技師(静岡県)



姿を生で見えてきました。そんな思い入れのある福島県が以前の姿を取り戻せるよう、福耕支援隊の一員として、通常業務のほか派遣元への広報活動に取り組みしていきたいです。

- ① 渡辺 彩水(わたなべ あやみ) 農村整備総室農村計画課
 - ② 三春町
 - ③ 岩手大学
 - ④ 大学で農村振興や土木について学んでいく内に、身につけた技術や学んだ知識を自らの地元である福島県の復興・復興に活かしたいと思えば職員として農業土木職で働くことを志望しました。
- 県北管内の調査計画に関することを担当しています。6、7月には担当地区の調査計画検討会に出席しました。検討会で地区の説明をしていただき、現場を調査す

ることで自分の担当地区について学びました。これから行われる東北農政局のヒアリングに向け、担当地区について概要や現状を自分自身で説明できるように整理しながら、事業の制度や仕組みについて少しずつ理解を深めたいと思っています。

入庁して5ヶ月が経ちますが、慣れないことが多く、先輩職員の方々に助けられてばかりです。一日も早く一人前になれるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。

「農空間」とは...
農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。

- ① 氏名・所属
- ② 出身地
- ③ 出身大学
- ④ 自己紹介



「福耕支援隊」とは...
福島の被災した農地を再び耕し、おいしい農作物を作るため全国から支援にいらしている農業土木職員の愛称です。